

協同プロジェクト最高賞

プロジェクト名

「ウィーンの子供たちの演奏会と夕食会を通して ロータリアン家族との交流会」

趣旨: オーストリアの J.S.Bach 音楽学校と J.M.Hauer 音楽院の学生 (平均年齢 14 歳) が、2005 年 6 月 29 日から 7 月 9 日まで栃木県に滞在する期間に、日本の子供たちにもクラシックの本場オーストリアの水準を知って頂き、ロータリー家族として日本とオーストリアの子供たちと一緒に食事をして友愛を暖め、お互いの国の文化の相互理解を深めることを目的として、ロータリー家族とオーストリアの若き音楽家との国際親善の場を企画いたしました。

同時に日本の文化を知って貰う為に、茶道裏千家淡交会 栃木県支部宇都宮青年部による茶席を設けました。また交流会の席では、白面金毛九尾子狐太鼓による日本の子供たちの演奏を企画しました。

本プロジェクトは、宇都宮北ロータリー・クラブのロータリー・ファミリー委員会が企画し、国際ロータリー第 2550 地区のロータリー家族委員会・新世代委員会・国際親善委員会の協力の下、地区全体のロータリー家族が集まり友愛を深めることを目的といたしました。また、青少年の交流と国際交流事業のボランティアの担い手の拡充とネットワークの構築による一層の両国の交流発展を期待するプロジェクトでもあります。

本プロジェクト報告: 2005 年 7 月 2 日に宇都宮グランドホテルにて、ロータリー家族交流会は約 250 人の参加者をお迎えして実施されました。

午後 5 時より茶道裏千家淡交会 栃木県支部宇都宮青年部による茶席 (席主 山野井 宗雅様) から始まりウィーンの子供たちもお茶を残さず楽しんでおりました。早く来場されたロータリアンの方もお茶を楽しまれました。



第 1 部の演奏会が定刻午後 6 時より開催。司会は地区国際親善委員会委員長の足利東ロータリー・クラブの関谷 和夫君が担当。彼の人が醸しだす和やかな交流会の進め方は、他団体との友愛を深めることが出来た最大の要因と思われます。



演奏の前に、「迎え花」にておもてなしをしました。これは、華道池坊 高木 敏子君（石橋ロータリー・クラブ・地区ロータリー家族委員会委員長）他 4 名のお弟子さんによるもので、ウィーンの子供たちをはじめ多くの人に感銘を与えました。



指揮者のヨハン・セバスチャン・バッハ音楽学校校長ハンス・クリスティアン・シュツテッケル氏によります演奏は、やはり本物であり、さすがに世界の音楽コンクールにての優勝者を数多く輩出しているオーケストラと感じました。そして、中 真理教授（当日参加いただきました東大医学部の森岡元教授の娘さん）による曲の説明も分かりやすく、大いに楽しめました。



第2部としてロータリー家族交流会が、午後7時15分から始まりました。那須ロータリー・クラブが後援しています白面金毛九尾子狐太鼓（はくめんこんもうきゅうびこぎつねだいこ）による和太鼓の演奏で参加者を会場に迎え、ウィーンの子供たちを驚かせました。原始的なリズムに会場はみな酔ったようでした。



そして、宇都宮北ロータリー・クラブのロータリー・ファミリー委員会（鈴木 正弘委員長）の夏祭りの夜店は、ウィーンの子供たちにも大変人気があり、ウィーンの子供も教授たちもお面を被り、射的や輪投げ水風船釣りに大忙しでした。宇都宮北の若さと素晴らしいチーム・ワークを地区の他クラブに印象付けることが出来ました。企画・買出し・チケット制作から始まり当日午後3時から準備をしました。会食会は、宇都宮北の夜店も賑わいそして多くの方との出会いを生むことが出来、近年稀に見る会合だったことをご報告いたします。



ロータリーの基本的概念でもあります the Object of Rotary の第1項は、「知り合いが、思いやりの心を互いに持ったとき、初めて心の友となる」と解釈されます。そして、ロータリー家族とは、会員の家族だけではなく、ロータリーの心にいささかなりとも触れた人のこのような大きな集まりと考えられます。今日ここで知り合った人たちが、お互いに相手を認めることができれば、これがロータリー運動の第1歩になると思います。

プロジェクトに参加した全ての団体の目標：「思いやりの心」をもって本プロジェクトを実行し、相互理解を深め、友愛を構築するような交流会の成功を目標としました。

プロジェクトのために必要とされた資金：

会場費・交流会食事代	1,184,596 円
白面金毛九尾子狐太鼓の交通費	100,000 円
茶道裏千家淡交会 栃木県支部宇都宮青年部茶席消耗品代	41,984 円
夜店の景品代	30,000 円
合計	1,356,580 円

ロータリアン参加者からの参加費徴収を資金源としました。

事業後に望める効果：クラシック音楽の本場のオーストリアの水準を知り、国際交流を活発化させ両国の文化の相互理解を深め、日本とウィーンの友好関係を構築する礎となり得るものと思います。今後のオーストリア・日本両国の友好的交流の懸け橋にしたいと思っています。そして、他団体との協同プロジェクトは、ロータリアンとの **face to face** の出会いにより、他団体の方たちに「サービスの理念」を十分に理解していただけたのではないかと思います。

また、ロータリー家族委員会として初めての地区の行事であり、新世代委員会・国際親善委員会との横のつながりという新たな展開に今後期待していきたいと思います。

文責：鈴木宏